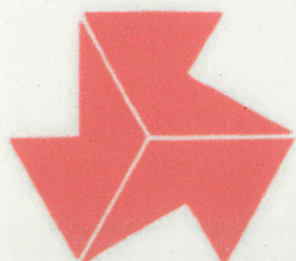


令和7年度(2025年度)

R7.9.20修正版

第69回関東高等学校登山大会



予報

山梨県 北杜市

八ヶ岳(三ツ頭・編笠山・西岳)

令和7年(2025年)10月10日(金)～12日(日)



三ツ頭山頂からの眺め(手前に編笠山・西岳、奥に中央・北アルプス)

令和7年度第69回関東高等学校登山大会

- 1 主催 関東高等学校体育連盟 山梨県教育委員会
- 2 主管 関東高等学校体育連盟登山専門部 山梨県高等学校体育連盟
山梨県高等学校体育連盟登山専門部
- 3 後援 (公益財団法人) 山梨県スポーツ協会 北杜市 北杜市教育委員会 山梨県山岳連盟
- 4 期日 令和7年10月10日(金)～10月12日(日)

5 会場 八ヶ岳(三ツ頭・編笠山・西岳)

- (1) 開閉会式会場 山梨県立八ヶ岳少年自然の家
〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 電話 0551-48-2306
JR 小海線清里駅徒歩 15 分
車の場合駐車場は一部を除いて北杜市営無料駐車場を利用予定
- (2) 幕営地 山梨県立八ヶ岳少年自然の家
〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 電話 0551-48-2306
- (3) 本部 山梨県立八ヶ岳少年自然の家
〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 電話 0551-48-2306

6 日程とコース

第1日目 10月10日(金) 受付・開会式・隊編成・幕営

受付 13:30～14:20 山梨県立八ヶ岳少年自然の家入口付近
開会式 14:30～15:00 山梨県立八ヶ岳少年自然の家体育館
隊編成 15:00～15:30 終了後、テントサイト(宿泊棟南芝生広場)へ移動
幕営 15:30～

第2日目 10月11日(土) 終日隊ごとに登山行動(サブザック) <＝バス…徒歩>

- A隊 三ツ頭コース：各都県2パーティー(80名) 行動410分＝6時間50分
幕営地(5:30)＝三ツ頭登山口(6:10)…八ヶ岳神社(7:05)…木戸口公園(8:35)…
三ツ頭(10:55)…前三ツ頭(10:40/11:10)…天女山駐車場(13:30)＝
幕営地(14:00)
- B隊 西岳コース：各都県3パーティー(120名) 行動395分＝6時間35分
幕営地(6:00)＝富士見高原ゴルフコース駐車場(6:55)…不動清水(7:40)…
西岳(10:20)…青年小屋(11:10/11:40)…押手川分岐(12:35)…観音平駐車場
(14:00)＝幕営地(14:55)
- C隊 編笠山コース：各都県3パーティー(120名) 行動375分＝6時間15分
幕営地(6:30)＝観音平駐車場(7:25)…押手川分岐(9:15)…編笠山(10:40/11:10)
…富士見高原ゴルフコース駐車場(14:10)＝幕営地(15:05)
- E隊 編笠山コース：総監督・役員 行動355分＝5時間55分
清里ユースホテル(6:40)＝観音平駐車場(7:25)…押手川分岐(9:15)…編笠山
(10:40)…青年小屋(11:00/11:30)…押手川分岐(12:25)…観音平駐車場(13:50)＝
清里ユースホテル(14:35)

第3日目 10月12日(日)

集合 8:00～8:50 山梨県立八ヶ岳少年自然の家体育館
閉会式 9:00～9:30 山梨県立八ヶ岳少年自然の家体育館
解散 10:00

〈補足事項〉

- * 台風等で幕営が困難となった場合は、山梨県立八ヶ岳少年自然の家体育館及び講堂、研修室での宿泊とする。
- * 各都県総監督、役員の宿泊は清里ユースホステルの予定。
- * 発熱や体調不良者の一時待機場所として、保健室を利用する。

7 参加人数

- (1) 各パーティーは選手4名 監督1名とし、選手のうち1名はリーダーとする。
- (2) 各都県8パーティーとし、男子6パーティー、女子2パーティーを原則とする。
- (3) Aコースは各都県2パーティー、B・Cコースは各都県3パーティーとする。
- (4) 各都県に総監督1名を置く。

8 引率・監督

- (1) 出場チームの選手は必ず引率責任者（監督）によって引率される。
- (2) 引率責任者（監督）は選手全ての行動に対して責任を負うものとする。
- (3) 引率責任者（監督）は校長の認める当該校の職員とする

9 参加資格

- (1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。ただし、休学中、留学中の生徒を除く。
- (2) 選手は、各都県高等学校体育連盟加盟校の生徒で、当該競技要項により参加の資格を得た者に限る。
- (3) 年齢は2006年4月2日以降に生まれたものとする。ただし、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
- (4) チームの編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (5) 統廃合の対象となる学校においては、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- (6) 転校後6ヶ月未満の者は参加を認めない（外国人留学生もこれに準ずる）。ただし、一家転住等やむを得ない場合は、各都県高等学校体育連盟会長の許可があればこの限りではない。
- (7) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長及び所属する高等学校体育連盟会長の承認を必要とする。
- (8) 関東高等学校体育大会参加資格の特例

ア 上記(1)及び(2)に定める生徒以外で、当該競技要項により大会参加資格を満たすと判断され、都県高等学校体育連盟が推薦した生徒について、別途に定める規定に従い大会参加を認める。

イ 上記(3)のただし書きについては、学年の区別を設けない課程に在籍する生徒の出場は同一競技3回限りとする。

【大会参加資格の別途に定める規定】

- 1 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、都県高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。
- 2 以下の条件を具備すること。
 - (1) 大会参加を認める条件
 - ア 関東高等学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
 - イ 参加資格を希望する専修学校及び各種学校にあっては、年齢、修学年限ともに高等学校と一致していること。また、連携校の生徒による混成は認めない。
 - ウ 各学校にあっては、都県高等学校体育連盟の予選会から出場が認められ、関東大会への出場条件が満たされていること。
 - エ 各学校にあっては、部活動が教育活動の一環として、日常継続的に責任ある顧問教諭の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失わず、運営が適切であること。

(2) 大会参加に際し守るべき条件

- ア 関東高等学校体育大会開催基準要項を遵守し、競技種目大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。
- イ 大会参加に際しては、責任ある教員が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。
- ウ 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

10 申し込み方法

- (1) 各都県の出場校は関東高体連のホームページの登山専門部から要項・参加申込書をダウンロードし、下記A・Cを作成して9月11日（木）までに都県別専門部提出フォームよりご提出ください。
- (2) 各都県の専門委員長も同様に要項・参加申込書をダウンロードし、下記B-1・B-2・C（役員分のみ）を作成して、出場校の申込データとともに9月18日（木）までに都県別高体連事務局提出フォームよりご提出ください。

- A 選手・監督参加申込書
- B-1 総監督申込書
- B-2 役員参加申込書
- C 送金明細書

(2) 申込先

- ・関東高体連ホームページ内の各提出フォーム <https://kanto-koutairen.jp/>

11 参加費等の納入方法

(1) 選手・監督の場合

- ① 参加費として、1パーティーにつき 20,000 円
- ② A・B・C隊は上記以外に諸経費として、1チームにつき
 - A隊 30,000 円（引率関係で5名を超える場合は、1人当たり 6,000 円追加）
〈内訳〉 輸送費 24,000 円 幕営料・施設利用料等 3,500 円 保険料 2,500 円
 - B隊 30,000 円（引率関係で5名を超える場合は、1人当たり 6,000 円追加）
〈内訳〉 輸送費 24,000 円 幕営料・施設利用料等 3,500 円 保険料 2,500 円
 - C隊 30,000 円（引率関係で5名を超える場合は、1人当たり 6,000 円追加）
〈内訳〉 輸送費 24,000 円 幕営料・施設利用料等 3,500 円 保険料 2,500 円

(2) 役員の場合

- ① 参加費として、1人につき 20,000 円
- ② 上記以外に諸経費として、1名につき 6,000 円

(3) 納入方法

- ・上記(1)は出場チームごとに、(2)は都県専門部委員長が9月11日（木）までに下記の口座に振り込んでください。

山梨中央銀行 城南支店（267）
普通預金
口座番号 464439
口座名義 第69回関東高等学校登山大会事務局 会計 伊良原 吉治
(ダイ69カイトウコウトカ`コウトザンタカシ`ギョク カイケイ イラハラ ヨシハル)

(4) 問い合わせ先

- ・会計担当 伊良原 吉治（いらはら よしはる）
山梨県立甲府南高等学校 〒400-0854 山梨県甲府市中小河原町 222
TEL055-241-3191 FAX055-241-3145

12 諸注意・諸連絡

- (1) 各都県は、高体連旗を持参してください。
- (2) 交通手段については、予備調査にご記入ください。
- (3) 大会会場周辺地図
 - ・国土地理院発行 1/25,000 地形図「八ヶ岳東部」「八ヶ岳西部」「小淵沢」「谷戸」
- (4) 宿泊については A～C の各隊ともに幕営自炊とします。必要な装備・食料等は参加者が持参してください。
- (5) 天候によっては冷え込みが厳しいので、十分な防寒対策をお願いします。
- (6) その他、諸注意・諸連絡は、予報（9 月発行予定）で参加校に連絡します。
- (7) 登山行動中の疾病・傷害などの応急措置は主催者が対応しますが、その後の責任は負いません。
- (8) 参加者は健康保険証を持参してください（コピー不可）。
- (9) 大会に関するお問い合わせは、下記大会事務局宛てにお願いします。
 - ・事務局（総務委員長） 萩原 好一（はぎはら こういち）

山梨県立甲府南高等学校 〒400-0854 山梨県甲府市中小河原町 222

TEL055-241-3191 FAX055-241-3145

【個人情報の取り扱いについて】

・大会参加に際して提供される個人情報は本大会に使用するものとし、これ以外の目的に使用することはありません（詳しくは次ページの「関東高等学校体育大会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて」をご参照ください）。

関東高等学校体育大会における個人情報

及び肖像権にかかわる取り扱いについて

関東高等学校体育連盟

関東高等学校体育連盟は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会プログラムに掲載します。
- (2) 競技会場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3) 競技会場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

2 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 開催都県各種目専門部の報道・記録係を通じて公開されます。
- (2) 認められた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (3) 大会プログラム掲載の個人情報とともに、大会本部が作成する大会報告書（以下「報告書」という。）に掲載されます。
- (4) 新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取り扱い

- (1) 認められた報道機関等が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 認められた報道機関等が撮影した映像が中継または録画放映されることがあります。また、DVD等に編集され、配布されることがあります。
- (3) このほか、関東高等学校体育連盟の許可にもとづき、記念写真等が販売されることがあります。

4 開催都県各専門部としての対応について

- (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
- (2) 参加申込書の提出により、上記の取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして、対応させていただきます。
- (3) 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、関東高等学校体育連盟事務局または大会を開催する各都県高等学校体育連盟まで御連絡ください。

連絡先・問い合わせ先

関東高等学校体育連盟 事務局（山梨県）	055-253-1846
埼玉県高等学校体育連盟	048-822-6792
神奈川県高等学校体育連盟	045-311-8817
千葉県高等学校体育連盟	043-252-1691
茨城県高等学校体育連盟	029-300-5012
東京都高等学校体育連盟	03-5320-7470
栃木県高等学校体育連盟	028-622-8660
群馬県高等学校体育連盟	027-224-5046

関東高校登山大会式典

《開会式次第》

令和7年10月10日（金）14:30～15:00

- | | | |
|------------------|-----------------------|-------|
| 1. 開式通告 | | 司会者 |
| 2. 開会のことば | 山梨県高等学校体育連盟登山専門部部长 | 志村 光司 |
| 3. 国旗掲揚（国歌斉唱） | | |
| 4. 諸旗掲揚（高体連の歌斉唱） | | |
| 5. あいさつ | (1) 山梨県高等学校体育連盟会長 | 山田 芳樹 |
| | (2) 関東高等学校体育連盟登山専門部部长 | 渡辺 昭彦 |
| 6. 歓迎のことば | (1) 北杜市市長 | 大柴 邦彦 |
| | (2) 山梨県選手団選手代表 | |
| 7. 来賓紹介 | 山梨県高等学校体育連盟登山専門部委員長 | 萩原 好一 |
| 8. 選手宣誓 | A隊・B隊・C隊各選手代表 | |
| 9. 閉式通告 | | 司会者 |

《登山隊編成》

令和7年10月10日（金）15:00～15:30

- | | | |
|----------------|------------------------|-------|
| 1. 諸連絡 | 第69回関東高等学校登山大会実行委員会事務局 | |
| 2. 登山隊長挨拶 | 第69回関東高等学校登山大会登山隊長 | 跡部 尚 |
| 3. 各コース隊長紹介 | 第69回関東高等学校登山大会登山隊長 | 跡部 尚 |
| 4. 隊ごとに集合・役員紹介 | 第69回関東高等学校登山大会A隊隊長 | 保坂 礼 |
| | 第69回関東高等学校登山大会B隊隊長 | 小野 勝仁 |
| | 第69回関東高等学校登山大会C隊隊長 | 清水 誠二 |
| | 第69回関東高等学校登山大会E隊隊長 | 門田 啓 |

《閉会式次第》

令和7年10月12日（日）9:00～9:30

- | | | |
|----------------|---------------------|-----------|
| 1. 開式通告 | | 司会者 |
| 2. 講評 | 第69回関東高等学校登山大会登山隊長 | 跡部 尚 |
| 3. あいさつ | 山梨県高等学校体育連盟登山専門部部长 | 志村 光司 |
| 4. 大会旗・コース旗引継ぎ | | 山梨県・東京都代表 |
| 5. 次期開催県あいさつ | 東京都高等学校体育連盟登山専門部委員長 | 斎藤 俊博 |
| 6. 感謝状贈呈・表彰状授与 | 関東高等学校体育連盟登山専門部部长 | 渡辺 昭彦 |
| 7. 閉会のことば | 山梨県高等学校体育連盟登山専門部委員長 | 萩原 好一 |
| 8. 閉式通告 | | 司会者 |

出場校一覧

登山隊長 跡部 尚（山梨県立甲府工業高校）

都県	A隊	B隊	C隊
隊長	保坂 礼（甲府第一）	小野 勝仁（北杜）	清水 誠二（韮崎工業）
副隊長	勝木 爵慶（韮崎）	末木 拓磨（北杜）	小宮山 隆（専門部OB）
茨城	茨城キリスト教学園高校	茨城県立海洋高校	茨城県立日立工業高校
	<u>茨城キリスト教学園高校</u>	茨城県立下館第一高校	茨城県立水戸第三高校
		<u>茨城県立下館第一高校</u>	<u>茨城県立水戸第三高校</u>
栃木	栃木県立大田原高校	—	—
群馬	群馬県立太田高校	<u>群馬県立太田女子高校</u>	群馬県立桐生高校
	群馬県立館林高校	群馬県立渋川高校	群馬県立高崎高校
		<u>群馬県立渋川女子高校</u>	新島学園高校
埼玉	埼玉県立久喜工業高校	埼玉県立浦和高校	<u>埼玉県立久喜高校</u>
	埼玉県立狭山工業高校	埼玉県立上尾高校	埼玉県立所沢西高校
		和光国際高校	正智深谷高校
千葉	千葉県立船橋啓明高校	専修大学松戸高校	市川学園高校
	千葉商科大学付属高校	千葉県立千葉高校	<u>千葉県立千葉高校</u>
		千葉県立成田高校	<u>千葉市立千葉高校</u>
東京	八王子学園八王子高校	専修大学附属高校	東京都立工芸高校
	明治大学付属中野高校	東京学芸大学附属高校	<u>東京都立工芸高校</u>
		<u>東京学芸大学附属高校</u>	安田学園高校
神奈川	神奈川県立厚木高校 神奈川県立光陵高校	<u>神奈川県立麻溝台高校</u> <u>神奈川県立相模原弥栄高校</u>	神奈川県立生田高校 神奈川県立秦野高校
	神奈川県立秦野曾屋高校 神奈川県立百合丘高校	神奈川県立小田原高校 神奈川県立川和高校	神奈川県立横浜修悠館高校横須賀 藤沢翔陵高等学校
		神奈川県立相模原弥栄高校 神奈川県立平塚中等教育学校	<u>横浜雙葉中学高等学校</u>
山梨	山梨県立甲府第一高校	山梨県立巨摩高校	山梨県立韮崎工業高校
	山梨県立甲府南高校	山梨県立都留高校	山梨県立甲府昭和高校
		<u>山梨県立都留高校</u>	<u>山梨県立甲府昭和高校</u>

コース別参加選手・監督

Aコース

A隊（赤） 合計87名（隊長・副隊長・班長・支援・補助員含む）

隊長 保坂 礼（甲府第一）

副隊長 勝木 爵慶（韮崎）

支援 角田 元（県山岳連盟）

[1班]

班長兼監督 石川 丈夫（甲府第一）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	茨城キリスト教学園高校	飯村 貴洋	中野 心景	津田 奏音	守田 佑生	富田 昌樹
群馬	群馬県立館林高校	中澤 中	高際 将誠	今成 瑞希	栗原 耕大	武田 大和
千葉	千葉商科大学付属高校	小平 幸治	川辺 源己	伊藤 蓮	別府 篤	吉田 暖生
山梨	山梨県立甲府第一高校	(石川 丈夫)	金子 仁	小野 悠也	金田 遼太	長田 勇輝

[2班]

班長 堀内 美津子（韮崎OB）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	<u>茨城キリスト教学園高校</u>	割貝 隆仁	岡野 美優	尾関 クララ	会澤 瑠香	板倉 凜香
千葉	千葉県立船橋啓明高校	宮本 祐輝	宮本 涼汰	矢島 一樹	松上 悠馬	磯部 護
神奈川	神奈川県立厚木高校	永井 慈史	浅尾 陸	中森 淳	—	—
	神奈川県立光陵高校	伴 恕弘	佐久間 悠太	舟田 俊	—	—

[3班]

班長兼監督 山下 聡（甲府南）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
群馬	群馬県立太田高校	滝沢 憲一	後藤 優雅	岩下 怜央	飯島 七斗	岡崎 瑠偉
埼玉	埼玉県立狭山工業高校	橋本 広大	村田 勝昭	佐賀山 泰輝	吉田 瑛士	中島 虎臥
東京	明治大学附属中野高校	望月 正秀	坂田 博基	長崎 健志	跡部 将崇	三澤 皓人
山梨	山梨県立甲府南高校	(山下 聡)	山田 溪太郎	芝田 律都	依田 至	保坂 勇翔

[4班]

班長 山本 健一（㈱フルマークス・専門部OB）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
栃木	栃木県立大田原高校	小磯 怜士 高梨 和幸	岡田 和真	山本 空	高野 伶恩	石塚 柊弥
埼玉	埼玉県立久喜工業高校	後藤 勝彦 雨貝 健一	中村 涉	安部 啓史	渡辺 蓮音	岩永 哉魁
東京	八王子学園八王子高校	伊東 武	藤原 知弘	井手 康太	小尾 朔哉	尾沼 穂澄
神奈川	神奈川県立秦野曽屋高校	高橋 秀文 佐藤 和香	清家 遼翔	杉本 朔太郎	—	—
	神奈川県立百合丘高校	辻 小夜	宇都 吉朗	北村 斗麻	—	—

◎太字・二重下線は女子

Bコース

B隊（青） 合計118名（隊長・副隊長・班長・支援・補助員含む）

隊長 小野 勝仁（北杜）
副隊長 末木 拓磨（北杜）
支援 辻 敏夫（県山岳連盟）

[1班]

班長 早川 剛裕（甲府西） 副班長 千野 政寿（甲府商業）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	茨城県立海洋高校	厚谷 綱良	打越 秀音	根本 隼丞	鈴木 遼也	中村 要
群馬	群馬県立渋川高校	里見 至	星河 慶人	田中 綾斗	木暮 恒太	宮前 遼
埼玉	埼玉県立浦和高校	杉山 哲夫	西山 桂史	加藤 知樹	武田 徹平	床井 涼太郎
千葉	専修大学松戸高校	青木 宏充	秋山 健成	溝江 草太	井口 直太郎	岡崎 翔
東京	専修大学付属高校	渡邊 賢	益谷 良介	江川 喜一郎	高取 和馬	保坂 大佑
神奈川	<u>神奈川県立麻溝台高校</u>	黒田 孝一	高橋 亜紗美	西山 萌彩	—	—
	<u>神奈川県立相模原弥栄高校</u>	（藤原 靖）	佐藤 そら	濱田 夏美	—	—
山梨	<u>山梨県立都留高校</u>	久保田将之	小野塚 そら	中村 優里	杉本 実優	澤上 莉瑚

[2班]

班長兼監督 五味 直哉（都留） 副班長 小池 文仁（巨摩）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	茨城県立下館第一高校	上林 拓哉	八木 玲也	内山 純一郎	篠崎 蓮	菊池 宏貴
群馬	<u>群馬県立太田女子高校</u>	関塚 一茂	高草木 ひなた	高野 琉衣	阿部 麻由凪	真下 綾音
埼玉	埼玉県立上尾高校	重本 文孝	増山 駿	溝口 陽斗	平田 珊瑚琉	神 直輝
千葉	千葉県立千葉高校	霊園 淳	内田 慧	新井 陸生	高橋 諒一	今井 龍
東京	<u>東京学芸大学附属高校</u>	坂井 英夫	大木 美弥	大日向 遥海	小林 紗希	松宮 紗優
神奈川	神奈川県立相模原弥栄高校	藤原 靖	豊田 賢大	吉平 伊織	—	—
	神奈川県立平塚中等教育学校	今枝 りか	佐々木 晴太郎	飯田 翔太	—	—
山梨	山梨県立都留高校	（五味 直哉）	幡野 佑季	木村 浩也	井上 輝紳	長幡 琉希

[3班]

班長 相沢 季里（専門部OG） 副班長兼監督 望月 光紀（巨摩）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	<u>茨城県立下館第一高校</u>	福井 勲	桑谷 菜月	山野 結衣花	大森 愛未	塚本 響巴
群馬	<u>群馬県立渋川女子高校</u>	大山 由里恵	金子 仁美	黒岩 海朱	堺 志帆	福江 紬
埼玉	和光国際高校	中野 光太 久米 あずさ	小松 武蔵	鶴川 蒼士	斎藤 遥宇	橋本 陸斗
千葉	千葉県立成田高校	曾田 泰宏	大和田 章史	鈴木 才志郎	鈴木 快	浅野 蒼空
東京	東京学芸大学附属高校	能代谷 賢治	平木 凜仁	林 伊織	込山 璃空	室井 淳志
神奈川	神奈川県立小田原高校	永島 敏充	毛利 仁	舟木 海	—	—
	神奈川県立川和高校	小笠原 健二	青木 健悟	樋口 将太	—	—
山梨	山梨県立巨摩高校	（望月 光紀）	坂本 蕾一	渡邊 煌太	清水 祐李	櫻本 輝

◎太字・二重下線は女子

Cコース

C隊（緑） 合計119名（隊長・副隊長・班長・支援・補助員含む）

隊長兼監督 清水 誠二（葦崎工業）
副隊長 小宮山 隆（専門部OB）
支援 望月 啓治（県山岳連盟）

[1班]

班長兼監督 清水 まゆ里（甲府昭和） 副班長 中澤 寿夫（山梨芋お湯割り登山隊）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	<u>茨城県立水戸第三高校</u>	福田 佳穂里	長谷井 莉央	茅根 雅	玉野 輪子	水野谷 結衣
群馬	群馬県立桐生高校	鈴木 健斗	森村 元哉	小林 勇介	岡田 拓斗	図子田 慎平
埼玉	<u>埼玉県立久喜高校</u>	大野 雄飛	楡井 さな	大家 柚七	五十嵐 詩月	大阪 彩乃
千葉	市川学園高校	中野 靖之	平野 優介	勝呂 駿	丹 雄一	吉岡 優剛
東京	東京都立工芸高校	斎藤 俊博	荒井 陽登	秋本 倫太郎	枅岡 志太郎	鬼塚 信吾
神奈川	神奈川県立生田高校	荒木 剛 後藤 さやか	長谷川 貴穂	亀山 紘一	—	—
	神奈川県立秦野高校	添田 悠介	桐山 和己	菊池 敬仁	—	—
山梨	<u>山梨県立甲府昭和高校</u>	(清水 まゆ里)	貫井 香梨	保坂 美空	塩沢 優芽	深澤 瑠里

[2班]

班長兼監督 佐野 未知也（甲府昭和） 副班長 窪沢 亜希宏（山梨芋お湯割り登山隊）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	茨城県立水戸第三高校	服部 友樹	加賀山 蒼太	鴨志田 謙真	大津 爽心	中林 悠翔
群馬	群馬県立高崎高校	長谷川 太一	高橋 遼真	乙幡 直希	津田 知毅	山本 佑斗
埼玉	埼玉県立所沢西高校	西久保 公平 小柴 雄三	鐵 一輝	相沢 旬佑	金子 雄哉	吉野 颯
千葉	<u>千葉県立千葉高校</u>	坂巻 諒一	清水 友紀奈	岡野 たから	岡村 優衣	平山 実幸
東京	安田学園高校	本間 明	小林 真大	中田 遥斗	藤澤 柊宇	石井 雄悟
神奈川	<u>横浜雙葉中学高等学校</u>	木村 憲太郎	岩澤 凜虹	片山 莉緒	関氏 円理	三溝 凜奈
山梨	山梨県立甲府昭和高校	(佐野 未知也)	古屋 尚汰	中島 瑠斗	上野 隼靖	七沢 歩

[3班]

班長 志村 かおり（甲府西） 副班長 林 久美子（山梨芋お湯割り登山隊）

都県名	学校名	監督	選手①CL	選手②	選手③	選手④
茨城	茨城県立日立工業高校	岩渕 泰徳	塚越 優宇	丁子 隼	田中 大稀	渡邊 陸玖
群馬	新島学園高校	坂庭 脩斗	吉田 新	原島 聖波	草苺 飛翔	石田 桃次郎
埼玉	正智深谷高校	大澤 正人	福田 隼平	笠原 悠生	藤井 琉可	新井 翔
千葉	<u>千葉市立千葉高校</u>	三坂 智樹	高橋 千尋	田邊 光莉	山崎 響子	山口 幸子
東京	<u>東京都立工芸高校</u>	柄澤 秀仁	佐野 愛里	篠塚 桃	渡邊 真由	佐藤 優香
神奈川	神奈川県立横浜修悠館高校横須賀	周藤 栄仁	東 晃太郎	牧 昇馬	—	—
	藤沢翔陵高校	谷口 浩平 谷口 天祥	北郷 友貴	栗原 青空	—	—
山梨	山梨県立葦崎工業高校	(清水 誠二)	樋口 好誠	樋川 夏輝	石井 栄作	齊藤 斗翔

◎太字・二重下線は女子

Eコース

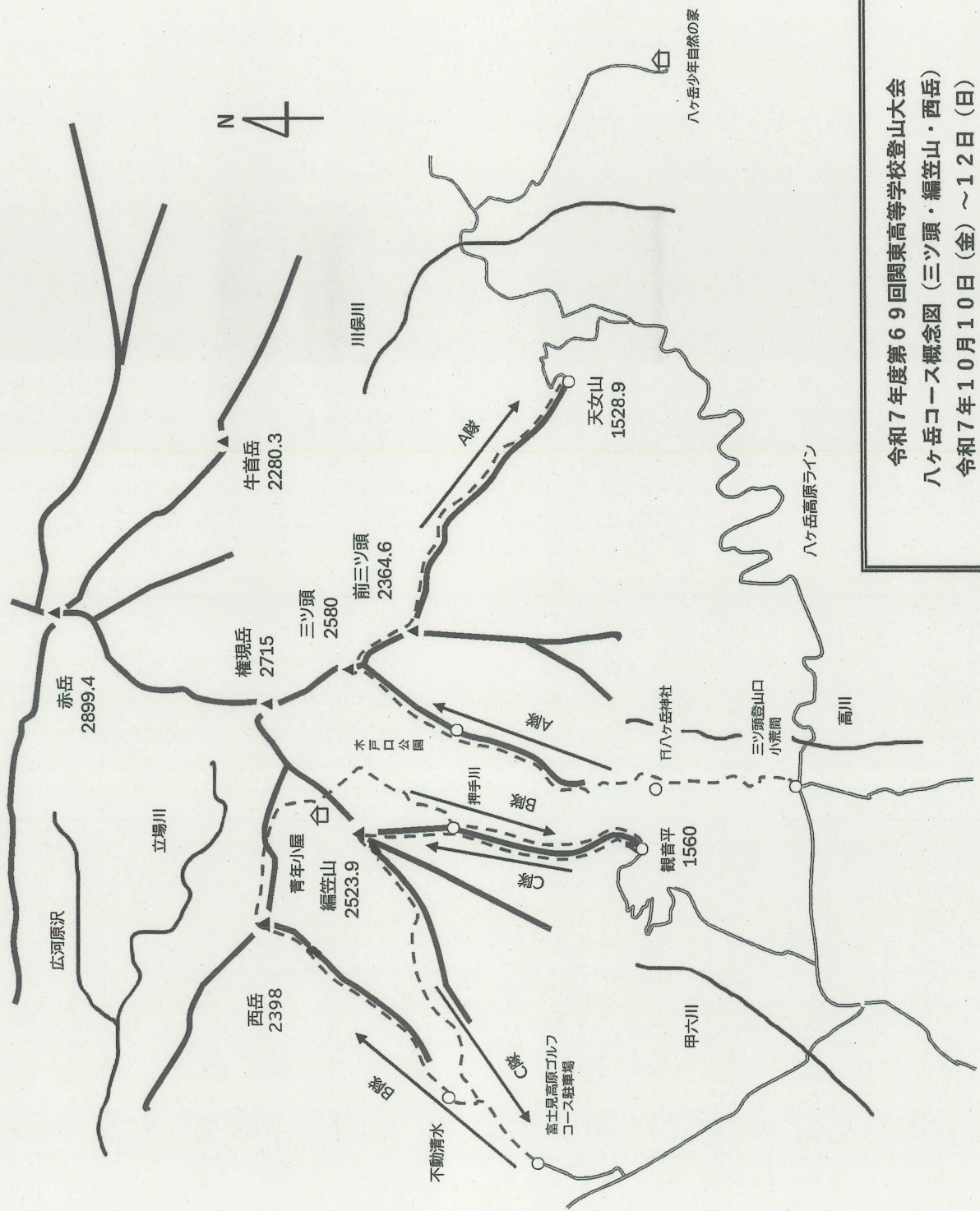
E隊（黄） 合計15名（隊長・副隊長・各都県役員・視察員）

隊長 門田 啓（富士河口湖）

副隊長 小林 稔（甲府城西）

都県名	中央総務	総監督	部 長
茨城	※岩渕 泰徳（日立工業） ※厚谷 綱良（海洋）	<u>青木 秀則（水戸第一）</u>	—
栃木	—	高梨 和幸（大田原・A隊参加）	—
群馬	手島 直樹（前橋） 神藤 啓太朗（太田東）	<u>*井田 祐一（富岡実業）</u>	<u>渡辺 昭彦（関東専門部長・太田）</u>
埼玉	<u>吉野 聡司（正智深谷）</u> <u>丸橋 隆弘（杉戸農業）</u>	※西久保 公平（所沢西）	—
千葉	※小平 幸治（千葉商大付） <u>翁長 翔平（千葉明德）</u> <u>久貝 啓介（成東）</u> <u>佐藤 壮汰（東総工業）</u>	<u>*関 研一（千葉東）</u>	—
東京	松本 陽介（立正大立正）	*※斎藤 俊博（工芸）	—
神奈川	<u>高田 雅文（有馬）</u> <u>嶋 友暉（旭）</u> <u>伊藤 伸也（茅ヶ崎北陵）</u>	<u>*中山 和也（住吉）</u>	—
山梨	跡部 尚（甲府工業）	*萩原 好一（甲府南）	志村 光司（県専門部長・甲府城西）

◎太字二重下線はE隊登山行動参加 *印は中央総務を兼ねる ※印は監督を兼ねる



令和7年度第69回関東高等学校登山大会
 ハケ岳コース概念図 (三ツ頭・編笠山・西岳)
 令和7年10月10日 (金) ~ 12日 (日)

バス輸送計画

10月11日（土）

《A隊》計87名

5:40 北杜市営清里無料駐車場発

6:10 ハヶ岳高原ライン小荒間交差点着

13:30 天女山駐車場発

13:50 北杜市営清里無料駐車場着

号車	班	都県名	学校名	人数
1 号 車 （ 4 0 名 ）	1班	茨城	茨城キリスト教学園高校	5
		群馬	群馬県立館林高校	5
		千葉	千葉商科大学付属高校	5
		山梨	山梨県立甲府第一高校	4
	2班	茨城	<u>茨城キリスト教学園高校</u>	5
		千葉	千葉県立船橋啓明高校	5
		神奈川	神奈川県立厚木高校	3
			神奈川県立光陵高校	3
	A隊副隊長・1班2班班長・補助員			

《B隊》計118名

6:10 北杜市営清里無料駐車場発

6:55 富士見高原スキー場駐車場着

14:00 観音平駐車場発

14:45 北杜市営清里無料駐車場着

号車	班	都県名	学校名	人数
3号車 (41名)	1班	茨城	茨城県立海洋高校	5
		群馬	群馬県立渋川高校	5
		埼玉	埼玉県立浦和高校	5
		千葉	専修大学松戸高校	5
		東京	専修大学付属高校	5
		神奈川	<u>神奈川県立麻溝台高校</u>	3
			<u>神奈川県立相模原弥栄高校</u>	2
		山梨	<u>山梨県立都留高校</u>	5
	B隊副隊長・1班班長・1班副班長・補助員			6

号車	班	都県名	学校名	人数
2 号 車 （ 4 7 名 ）	3班	群馬	群馬県立太田高校	5
		埼玉	埼玉県立狭山工業高校	5
		東京	明治大学付属中野高校	5
		山梨	山梨県立甲府南高校	4
	4班	栃木	栃木県立大田原高校	6
		埼玉	埼玉県立久喜工業高校	6
		東京	八王子学園八王子高校	5
		神奈川	神奈川県立秦野曽屋高校	4
			神奈川県立百合丘高校	3
	A隊隊長・3班4班班長・支援			

号車	班	都県名	学校名	人数
4号車 (37名)	2班	茨城	茨城県立下館第一高校	5
		群馬	<u>群馬県立太田女子高校</u>	5
		埼玉	埼玉県立上尾高校	5
		千葉	千葉県立千葉高校	5
		東京	<u>東京学芸大学附属高校</u>	5
		神奈川	神奈川県立相模原弥栄高校	3
			神奈川県立平塚中等教育学校	3
		山梨	山梨県立都留高校	4
	2班班長・2班副班長			2

号車	班	都県名	学校名	人数
5号車 (40名)	3班	茨城	<u>茨城県立下館第一高校</u>	5
		群馬	<u>群馬県立渋川女子高校</u>	5
		埼玉	和光国際高校	6
		千葉	千葉県立成田高校	5
		東京	東京学芸大学附属高校	5
		神奈川	神奈川県立小田原高校	3
			神奈川県立川和高校	3
		山梨	山梨県立巨摩高校	4
	B隊隊長・3班班長・3班副班長・支援			4

10月11日（土）

《C隊》計119名

6:40 北杜市営清里無料駐車場発

7:25 観音平駐車場着

14:10 富士見高原スキー場駐車場発

14:55 北杜市営清里無料駐車場着

号車	班	都県名	学校名	人数
6 号 車 （ 4 2 名 ）	1班	茨城	<u>茨城県立水戸第三高校</u>	5
		群馬	群馬県立桐生高校	5
		埼玉	<u>埼玉県立久喜高校</u>	5
		千葉	市川学園高校	5
		東京	東京都立工芸高校	5
		神奈川	神奈川県立生田高校	4
			神奈川県立秦野高校	3
		山梨	<u>山梨県立甲府昭和高校</u>	4
	C隊副隊長・1班班長・1班副班長・補助員			6

号車	班	都県名	学校名	人数
7号車 (37名)	2班	茨城	茨城県立水戸第三高校	5
		群馬	群馬県立高崎高校	5
		埼玉	埼玉県立所沢西高校	6
		千葉	<u>千葉県立千葉高校</u>	5
		東京	安田学園高校	5
		神奈川	<u>横浜雙葉中学高等学校</u>	5
		山梨	山梨県立甲府昭和高校	4
	2班班長・2班副班長			2

号車	班	都県名	学校名	人数
8 号 車 (4 0 名)	3班	茨城	茨城県立日立工業高校	5
		群馬	新島学園高校	5
		埼玉	正智深谷高校	5
		千葉	<u>千葉市立千葉高校</u>	5
		東京	<u>東京都立工芸高校</u>	5
		神奈川	神奈川県立横浜修悠館高校横須賀	3
			藤沢翔陵高校	4
		山梨	山梨県立韮崎工業高校	4
	C隊隊長・3班班長・3班副班長・支援			

《E隊》計15名

6:40 清里ユースホステル発

7:25 観音平駐車場着

13:50 観音平駐車場発

14:35 清里ユースホステル着

号車	都県名	氏名（学校名）	人数
9号車 (15名)	茨城	青木 秀則（水戸第一）	1
	群馬	渡辺 昭彦（太田）	1
		井田 祐一（富岡実業）	1
	埼玉	吉野 聡司（正智深谷）	1
		丸橋 隆弘（杉戸農業）	1
	千葉	関 研一（千葉東）	1
		翁長 翔平（千葉明德）	1
		久貝 啓介（成東）	1
		佐藤 壮汰（東総工業）	1
		中山 和也（住吉）	1
	神奈川	高田 雅文（有馬）	1
		嶋 友暉（旭）	1
		伊藤 伸也（茅ヶ崎北陵）	1
	E隊隊長・E隊副隊長		2

コース案内

【A隊（三ツ頭コース）】各都県2パーティー 行動410分＝6時間50分

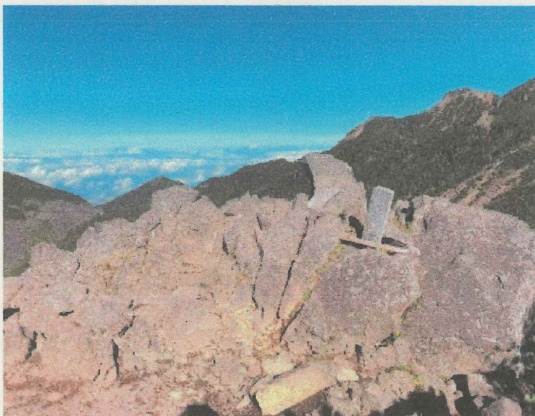
幕営地（5:30）＝三ツ頭登山口（6:10）…八ヶ岳神社（7:05）…木戸口公園（8:35）…三ツ頭（10:05）
…前三ツ頭（10:40/11:10）…天女山駐車場（13:30）＝幕営地（14:00）

幕営地からバスに乗り40分でスタート地点の小荒間交差点(約1,100m)に到着する。ここが三ツ頭・権現岳へと通じる小泉登山口である。カラマツ林の中、舗装された林道を5分ほど歩くと、「林道 古
杣川終点」と書かれた十字路に着く。ここでは右側のルートを選択するが20mほど進むと左手に標識の
ある分岐が見え、「権現岳・三ツ頭」方面へ熊笹が一面に生い茂る広い尾根上を進む。途中、大きな露岩
の上に石の祠が祀られた八ヶ岳神社を過ぎると観音平、天女山に続く分岐に出る。ここを権現岳方面へ
進むとコメ楡の混じる笹地が終わり、急登が始まる。しばらくすると右手側の視界が広がりヘリポート
跡に至る。A隊の登りは展望の開ける場所が少ないが、ここからは晴れていれば、富士山、南アルプス
の山々、金峰山が一望できる。一息ついた後、改めてこれまでのコースを三ツ頭方面に向けて進む。途
中「木戸口公園」と書かれた標識を過ぎるとしばらくの間急登が続く。本コースで一番苦しいところ
あるが、足元にはお花畑や美しい苔が、左手には編笠山、権現岳などの雄大な景色が広がり飽きるこ
となく歩みを進めることができる。樹林帯が終わりハイマツが現れると山頂へ続く分岐に到着する。左手
に進むとすぐに目的地である三ツ頭（みつがしら）山頂（2,580m）に着く。山頂からは八ヶ岳の主峰赤
岳や権現岳、C隊が登る編笠山、南アルプスや中央アルプス、遠くは白山を望むことができ、視線を下
ろすと諏訪湖の広がる様子も確認できる。帰路は先ほど通った分岐を直進する。稜線上では正面に富士
山が雄大に構え、紅葉に色づく八ヶ岳の姿とともに登山の思い出の一つとなるであろう。しかし、足元
は所々ガレており、スリップや落石に注意が必要である。森林限界から樹林帯に入り、しばらく歩くと
視界が開けはじめたら前三ツ頭（まえみつがしら）まであと少しだ。

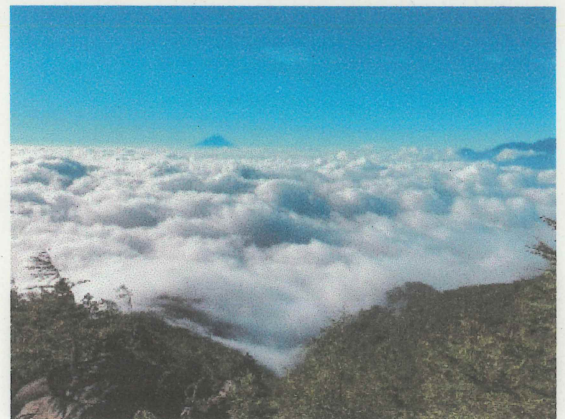
前三ツ頭は標高2,364.6m。尾根上の細長い露岩の広場で展望がすばらしい。前方には富士山、左を見

れば鋸岳、甲斐駒ヶ岳、白根三山、鳳凰三山を望むことが出来る。ここからの下りは傾斜が急になり木の根や石も増える上に登山道が狭くなる。滑落、落石による事故を予防するためにも十分注意して歩いて欲しい。進むにつれ笹地に入り足元の視界が遮られる。足元には木の根や露岩、砂礫地が点在しており引き続き注意が必要となる。下山のコースの中で最も苦しいところだ。笹地が終わりを告げると勾配がなだらかになり、広く歩きやすい稜線上を進む。展望は望めないが、色づく木々の合間から降り注ぐ木漏れ日の中、山歩きを楽しむことができる。ベンチのある広い砂礫地（天ノ河原）に着くと本コースのゴールである天女山駐車場まであと10分程である。天女山駐車場からはバスに乗り幕営地に向かう。

なお本コース上にはアブがいる可能性がある。各チームとも虫除け、虫さされ薬の準備を勧めたい。また、本コースの獲得標高は1,500m。体力・体調を整え登山に臨んでもらいたい。



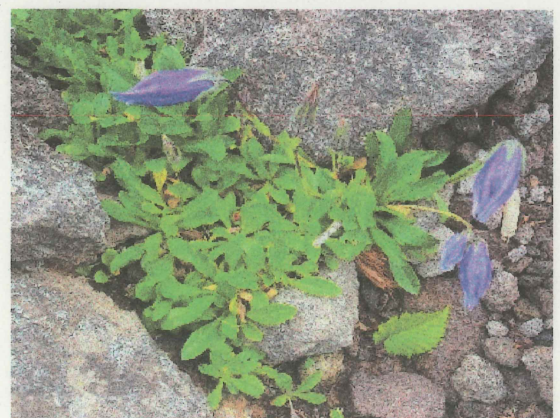
三ツ頭山頂から青年小屋・西岳方面



雲海と富士



コイワカガミ



イワギキョウ

【B 隊（西岳コース）】 各都県 3 パーティー 行動 395 分＝6 時間 35 分

幕営地（6:00）＝富士見高原ゴルフコース駐車場（6:55）…不動清水（7:40）…西岳（10:20）…
青年小屋（11:10/11:40）…押手川分岐（12:35）…観音平駐車場（14:00）===幕営地（14:55）

B 隊の西岳コースは難易度も比較的やさしく、初心者向けのコースである。西岳は八ヶ岳最南端の編笠山の隣にある山であり、編笠山と同じ形をしていて、きれいな裾野が特徴的だ。基本的に登山道の途中に視界が開けるところがあまり無いため、地味に黙々と登ることとなる。その分、山頂から見る編笠山や小淵沢周辺の景色を楽しみたいものである。

登山口は富士見高原登山口から始まる。ここは八ヶ岳富士見高原リゾートという場所で、スキーやハイキング、ゴルフなど年間を通して楽しむことができる場所となっている。富士見高原リゾートの駐車場から舗装された道路を歩くと登山口が現れる。いよいよ本格的な登山行動開始の合図である。

登山口からは、なだらかな登山道や林道を 30 分程歩く。すると不動清水という靈妙で清らかさを感じることができる水場が現れる。ここは中近世には山岳修験霊場のひとつであったという水場で、古くは長命水、御手洗場とも呼ばれていた。1 回目の小休止はここで取りたいと思う。ここからも森林帯を歩くこととなる。勾配については今までとは違い、やや急となることを肝に銘じよう。30 分程度進むと勾配が更に急になってくる、いよいよ頑張り時だ。

同じような急登が続いたのち、標高 2,100m 付近には小広場という小さく平らなスペースが広がっている場所がある。ここから 40 分程度歩くと突然視界が開ける場所がある。ここでは右手には雄大な編笠山を眺めることができるだろう。ここまで来ればもうひと踏ん張りである。最後の急登を終え、再度視界が開けたところがピークである。遥か南には富士山、そして編笠山や青年小屋、小淵沢などの絶景を楽しめる。

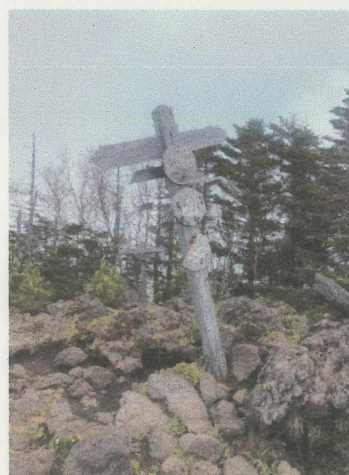
西岳ピークで小休止を取った後は青年小屋へと向かう。多少のアップダウンはあるものの、この区間は比較的単調である。青年小屋手前には乙女の水という水場があり、年間を通して冷たく美味しい

水を汲むことができる。乙女の水から5分で青年小屋へと到着する。ここは「遠い飲み屋」として登山者には有名な山小屋であり、20歳を迎えたらもう一度来ていただきたい。青年小屋では大休止を取る予定である。

大休止後は編笠山の巻き道で下山する。大きな石があったり、時にはぬかるんでいたりするため注意して下山したいところである。しばらくすると押手川に到着する。押手川とはここの地名で、昔に登山者が水を求めて苔の中に手を入れたところ、水が湧き出たという言い伝えからその名がついた。今でも前日などに降雨があった場合には小川が現れる場所となっている。その後は小淵沢や清里周辺がきれいに見渡せる雲海を経て観音平登山口へと下山する。



不動清水



西岳山頂



青年小屋入口



青年小屋からの富士

【C隊（編笠山コース）】各都県3パーティー 行動375分＝6時間15分

幕営地（6:30）＝＝観音平駐車場（7:25）…押手川分岐（9:15）…編笠山（10:40/11:10）…
富士見高原ゴルフコース駐車場（14:10）＝＝幕営地（15:05）

編笠山は八ヶ岳連峰の最南端にあり、標高 2,523m、山裾を長く引いたなだらかな山容が編笠を伏せた様に見えることからこの名前が付いたと言われている。

登山コースの出発点である観音平駐車場は少年自然の家からバスで 45 分程で到着する。駐車場には仮設トイレが3基あるが水道はない。観音平は標高 1,570m、編笠山山頂との標高差は約 1,000mである。

駐車場にある登山口道標から登山道に入り、カラムツやダケカンバの林が広がるさわやかな樹林帯の中を緩やかに登って行く。しばらくすると徐々に勾配が増し、木の根や大きな石が露出した場所を通過すると「雲海展望台」とよばれる地点に着く。ここでは朝の時間帯に運が良ければ、名前のとおり眼下一面に広がる雲が大海原のように見え、少し開けた場所から富士山も見ることができる。登山口から雲海展望台までは 50 分程で到着し、ここで小休止を取る予定である。

雲海からさらに進み、木の根や岩で段差のある場所を通過し、やや勾配が緩やかになるとまもなく「押手川」に着く。押手川は樹林帯の中にあり、広地に岩石が転がっており、川というよりも湿地で休憩地になっている。この場所は地面を手で押すと水がしみ出してきたことに由来し、「やまなしの森林 100 選」となっている。

押手川で小休止を取り、押手川の分岐を「編笠山山頂」方面に直進するが、ここから編笠山山頂までは標高差約 500mの急登となり、大きな石や岩が多い登山道を進む。しばらくして登山道を振り返ると樹林の間から南アルプスが見え始め、さらに登ると富士山も見えるようになる。さらに勾配が増しハシゴを通過するとハイマツ地帯となり、あとひと登りで「編笠山山頂」に到着する。

編笠山山頂は岩原や石原のようで、360 度の素晴らしい展望となっている。北八ヶ岳の蓼科山、南八ヶ岳の赤岳・阿弥陀岳・権現岳をはじめ、南アルプスや富士山、諏訪湖までが一望できる。天候に恵まれれば北アルプスまでも望むことができる。山頂は観音平コースのほか、青

年小屋からのコースと長野県側の富士見高原コースの合流地点となっている。ここでは大休止を取る予定である。

下山は道標の「富士見高原・信濃境・不動清水」方面に進んでいく。始めは岩場の連続で浮石とよばれる不安定な岩は少ないが、慎重に足元を一步ずつ確認しながら岩に付けられたペンキの矢印に従って進み、樹林帯へ入っていく。樹林帯に入ると「シャクナゲ公園」や「見晴台」の看板がある。この2ヶ所はそれらしき雰囲気や展望は見られないが、途中に通る大岩が並ぶ地帯には、昔の人が寝泊まりに利用した「臼久保岩小屋」跡が見られる。樹林帯の中はシラビソやコメツガ、ダケカンバなどの混合林が広がっている。岩場や鎖場といった難所はなく急傾斜も少なく、林道に出るまで標高 100m ごとに看板が設置されているので歩きやすいが、木の根や落ち葉、雨などでぬかるんでいることもあるため注意して下山していきたい。最初の林道から 60 分程歩くと、このコースの終点「富士見高原ゴルフコース駐車場」に到着する。ここからバスに乗り込み、幕営地である「少年自然の家」へ向かう。



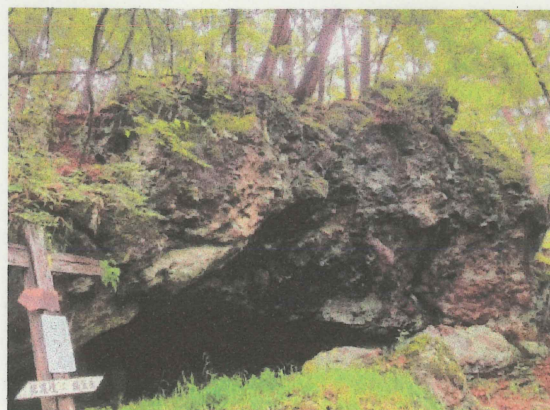
雲海展望台



押手川分岐



編笠山頂



臼久保岩小屋

【E 隊（編笠山周回コース）】総監督・役員 行動 355 分＝5 時間 55 分

清里ユースホステル（6:40）＝＝観音平駐車場（7:25）…押手川分岐（9:15）…編笠山（10:40）…青年小屋（11:00/11:30）…押手川分岐（12:25）…観音平駐車場（13:50）＝＝清里ユースホステル（14:35）

観音平（標高約 1,570m）からスタートし、最初は穏やかな登りが続きます。登山道はしっかりと整備されており、足元も安定しているため、安心して歩き始めることができます。この区間では、緑豊かな樹林の中を進みます。観音平から数分進むと、標識が現れ、押手川分岐に向かう道が分岐しています。この分岐を目指して進んでいきますが、道中では時折開けた場所に出ることがあり、そのたびに八ヶ岳山系の雄大な景色が広がります。押手川分岐（標高約 2,090m）に到着すると、分岐点から次の目的地へ向かう選択肢が現れます。この地点から先、編笠山に向かって登りが始まりますが、登山道は急激な傾斜になり、標高差が増すことで息が切れやすくなります。登山者にはしっかりとした体力が要求される区間となります。

押手川分岐から編笠山山頂（標高 2,524m）までは、急勾配を登り続けることになります。道中では樹林帯が途切れ、山頂が近づくにつれて視界が広がり、八ヶ岳の一望できる絶景が楽しめます。特に晴れた日には、山頂から望む景色が圧巻です。登りの道はしっかりと整備されており、途中には休憩できる場所も点在していますが、標高が上がるにつれて気温が低くなることを考慮して、十分な防寒対策が必要です。

山頂に到着すると、八ヶ岳の主峰である赤岳をはじめ、近くは南アルプス、遠くは北アルプス・中央アルプスの山々が一望できます。標高 2,524m からの眺めは、息をのむような美しさで、登山の醍醐味を存分に感じる事ができるでしょう。ここで少し休憩を取り、次の目的地である青年小屋に向かって下り始めます。編笠山山頂から青年小屋（標高約 2,390m）に向かって下るルートは大きな岩場が続くため、慎重に足元を確認しながら歩く必要があります。急な下り道が続くので、膝に負担がかかることがあります。特に注意が必要なのは岩場の滑りやすい箇所が点在する部分で、慎重に歩くことが求められます。途中で振り返ると、編笠山の山頂や周囲の美しい景色が広がっており、下りの途中での休憩も楽しめます。

青年小屋には、登山者が休息できるスペースがあり、水や食料を補充することができるため、体力を回復するための重要な拠点となります。また、小屋周辺にはベンチやテーブルが設置されており、そこで軽食をとることができます。標高差を下った後、少し疲れが溜まる頃ですが、無理なく休憩し、巻道を通る準備を整えます。

青年小屋からは、巻道を通して押手川分岐へと戻ることになります。この巻道は、主に標高差が小さいため比較的平坦で歩きやすいですが、一部にはぬかるんだ場所や岩場があるため、注意が必要です。道中では、再び美しい景色を楽しみながら進むことができ、周囲の自然に触れながら歩くことができます。

巻道を進んでいくと、途中で展望スポットがいくつか現れ、八ヶ岳や周辺の山々を見渡することができる場所があります。自然の音に包まれながら歩き続けると、やがて押手川分岐に到着します。

押手川分岐から観音平に戻る道は、先ほど通った道をそのまま引き返す形になります。疲れた体を癒しながら、ゆっくりと下り坂を進んでいきます。途中、振り返ることで、登ってきた道や登山中に楽しんだ景色を再度楽しむことができます。観音平に戻る頃には、少し疲れが出ているかもしれませんが、無事に目的地に到着することで達成感を味わうことができるでしょう。



赤岳・権現・阿弥陀



南アルプスの山々



北アルプスの山々



中央アルプスの山々

南八ヶ岳の魅力

【八ヶ岳南麓のおもな歴史】

1 縄文文化の繁栄 八ヶ岳の南麓（いまの山梨県北杜市）には縄文時代の遺

跡が数多い。とくに中期（約五～四千年前）には、西南麓（長野県富士見町・原村・茅野市）とあわせた山麓一帯で集落遺跡が高密度に分布し、今日では“縄文王国”などと呼ばれている（日本遺産「星降る中部高地の縄文世

界」の中心地域の一つ）。豊富な湧水や落葉樹林に実る堅果類が人々の生活を支えた。採集・狩猟に加え、クリ林の人工的な管理や根菜類などを

栽培しながら計画的に食料を生産していたと考えられている。西南麓の尖石遺跡や井戸尻遺跡、南麓を望む茅ヶ岳山麓の梅之木遺跡では中期の集落が、後期・晩期でも大規模な祭祀遺構が発見された金生遺跡が復元展示されている。



顔面把手付深鉢（津金御所前遺跡）
縄文時代中期
写真提供 北杜市教育委員会

2 甲斐の黒駒の産地 古墳時代の半ば以降、朝鮮半島からの渡来人が甲斐（いまの山梨県）に入植し、彼らの馬を飼育する知識・技術で牧（まき）が南麓でも経営された。「甲斐の黒駒」が聖徳太子に献上されたという伝承もある。平安時代になると、朝廷直轄の御牧（みまき）が南麓にも設けられ（例：柏前〈かしわざき〉の牧）、甲斐は良馬の産地として知られた。また、貴族が管理していた牧も複数あったと推定されている。牧経営に関係する人々が増えたためか、南麓では平安時代の集落遺跡も数多い。

3 甲斐源氏の勃興 平安時代後期、源義光（新羅三郎）の子・義清（武田冠者）は、子の清光とともに常陸国武田郷から甲斐に配流となった。清光は八ヶ岳南麓の巨摩郡逸見（へみ・へんみ）郷を拠点として逸見清光と称した。南麓の牧を掌握しながら勢力を拡大し、彼の子たちは甲斐の各地を支配するようになった（のちに甲斐源氏と呼ばれる）。清光の次男・信義は元服の際に武田八幡宮（山梨県韮崎市）で祖父義清の武田姓に復し（武田信義）、甲斐源氏を率いた。彼らは、治承・寿永の乱（源平合戦）で勢力を拡大、東国有数の武士団となったが、その力を警戒した源頼朝の肅正により弱体化した。

4 武田氏の支配と滅亡 室町時代前半、甲斐では武田氏と反武田勢力の争いが続いた。南麓では、逸見氏の基盤を継承した今井氏が反武田勢力の中心となった。武田信義から一四代目の子孫・信虎は、1,532年に今井氏を降伏させて甲斐を統一した。信虎は南麓を信濃（いまの長野県）攻略の前進基地とし、八ヶ岳東麓の信濃・佐久地方へ侵攻を重ねたが、1,541年に嫡男・晴信（のちの信玄）によって追放された。信玄も信濃へ侵攻し、軍事情報伝達のための烽火（狼煙）台を南麓一帯に整備した。また、南麓から西南麓にかけて軍事用道路「棒道」が築かれたとされ、その跡は現在「歴史の道百選」に選定されている。信玄の後を継いだ勝頼は、南麓と甲府を結ぶ七里ヶ岩台地に新たな拠点・新府城（韮崎市）を築き織田信長・徳川家康に抗したが、1,582年に武田氏は滅亡した。直後に本能寺の変が起き、南麓は甲斐の支配をめぐる徳川氏と北条氏の3か月にわたる抗争の舞台となった（天正壬午の乱）。

5 近世・近代の開発 江戸時代に南麓は甲斐と信濃を結ぶ交通の要衝として街道・宿場が整備され（甲州街道の台ヶ原宿、佐久往還の若神子宿など）、国境近くには治安維持のための口留番所（関所）が設けられた。また、豊かな湧水を利用して堰（用水路）が開削され新田開発が進み、甲斐でも有数の穀倉地帯となった。明治時代には養蚕業が発展し、桑などの栽培や養蚕技術伝習場が設置された。大正時代からはビール製造に欠かせないホップの栽培も盛んに行われた。

6 高冷地の開拓 東京都・小河内ダム建設（1,938年）で故郷を追われ移住してきた人々による清里地区での開拓（農林省技官・安池興男の献身的指導）、また太平洋戦争中・終戦直後の食糧難打開のための開拓が、ともに標高一千mを超える農業に向かない高冷地で推し進められた。開拓は過酷な自然環境により困難を極め多大な犠牲をともなった。そんな戦前の清里地区に青少年の指導者訓練キャンプ施設（清泉寮）を建設したポールラッシュ博士（米）は、戦後はキープ協会を組織して酪農など高冷地農業の実験的実践と農村整備に取り組み、協会は高原開拓の拠点となった。

小宮山 隆（山梨県教育委員会）

参考文献 北杜市郷土資料館（2016）『ほくと歴史の杜紀行』

【ハケ岳の植生】

1. 丘陵帯(標高 1,000～1,500m)

ハケ岳南部の山麓地域は、落葉広葉樹林を中心とする温帯林が広がっています。主にミズナラ、カエデ類などが優占し、林床にはササ類やシダ植物が繁茂しています。この地域は人里にも近いので、里山として利用されることが多く、アカマツ林や二次林も点在しています。春から初夏にかけては、イチリンソウ、ニリンソウ、カタクリなどの草花も見られ、季節の変化に富んだ風景が楽しめます。

2. 山地帯(標高 1,500～2,200m)

この帯域では、冷温帯性の針広混交林(図1)が発達しています。特に代表的なのがコメツガ、シラビソなどの樹種です。針葉樹が優勢となるとともに、林床にはコケ類が豊富に生育し、湿潤な環境を好む植物が目立ちます。また、南ハケ岳の特徴としては、北ハケ岳よりも岩場や急峻な地形が多く、植生にもその影響が見られます。たとえば、岩場に根を張るチシマザサやダイヤモンドソウ、イワカガミなどが自生し、限られた環境に適応した植物群落が形成されています。

3. 亜高山帯(標高 2,200～2,500m)

この帯域では、亜高山針葉樹林が卓越し、シラビソなどが優占します。ダケカンバも混じり林冠の低い森林が見られます。さらに標高が上がると森林限界に近づき、樹木の高さは次第に低くなっていきます。亜高山帯は気温が低く、積雪も多いので、生育できる植物は限られています。それでもシラネアオイやミヤマカラマツ、ミヤマダイコンソウなどの高山植物が点在し、夏には鮮やかな花を咲かせて訪れる登山者を喜ばせます。(図2)

4. 高山帯(標高 2,500m 以上)

南ハケ岳では、赤岳(2,899m)や硫黄岳(2,760m)、権現岳(2,715m)(図5)などの高峰がこの帯域に属します。ここでは森林限界を越え、この帯域ではハイマツ(図3)が局所的に分布し、強風にさらされる風衝地や雪田地帯では、コマクサ、イワウメ、キバナシャクナゲ、チョウノスケソウ、イワギキョウ(図4)などが自生しています。特に横岳のコマクサ群生地は、南ハケ岳を代表する高山植生のひとつです。

5. 植生と地形・気候の関係

ハケ岳南部は、火山性の地質を持ち、溶岩や火山礫に覆われた地形が多く見られます。こうした地形は土壌の発達を妨げるため、場所によっては植物の生育が難しい環境もあります。しかし、逆にこのような環境に適応した特有の植物群落も発達しており、地形と植生の関係が密接であることがうかがえます。また、南ハケ岳は太平洋側の気候の影響を受け比較的降水量が多いため、湿潤な環境が植物の成育を支えています。特に南側斜面は日照が多く、北側に比べて樹木の成長も盛んです。

6. 保全の課題

近年では、登山者の増加による踏圧や外来植物の侵入、気候変動による高山植物の減少などが課題となっています。特に高山帯では、希少種の保全と登山道の整備が急務とされ、地元自治体や自然保護団体によってさまざまな取り組みが進められています。

五味 直哉（山梨県立都留高等学校）



図1 山地帯の苔むした針広混交林



図2 三ツ頭登山道中のヘリポート(亜高山帯)

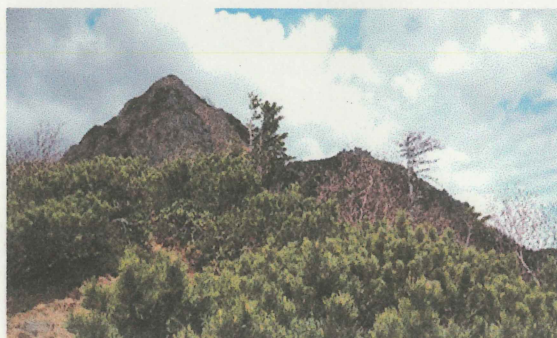


図3 編笠山方面から見える権現岳とハイマツ



図4 赤岳山頂付近のイワギキョウ



図5 権現岳山頂付近の北斜面(左)と南斜面

【八ヶ岳のいきもの】

八ヶ岳南部は、長野県と山梨県にまたがる山岳地帯の一部で、標高差が大きく、豊かな自然環境が広がる地域です。この地域は、亜高山帯から高山帯にかけての植生や気候帯が複雑に入り組んでおり、多種多様な動植物が生息しています。特に南部は比較的標高が低く、落葉広葉樹林や針葉樹林が混在する森が広がっており、そこに暮らすさまざまな生き物が観察されます。八ヶ岳南部では、ニホンジカやニホンカモシカ（図1）といった大型草食動物がよく見られます。ニホンジカは季節によって行動範囲を変え、冬には標高の低い場所へ移動します。近年は個体数増加により高山植物への食害が問題となっています。ニホンカモシカは国の特別天然記念物で、岩場や急斜面を巧みに移動し、単独で行動する習性を持ちます。これらの草食動物を狙う捕食者として、ホンドギツネやテンが見られ、時にツキノワグマも現れます。ツキノワグマは臆病な性格ですが、秋には冬眠前に栄養を蓄えるため、果実や堅果（ドングリ・クリなど）、昆虫を積極的に食べます。

鳥類も非常に多様で、標高や季節によって異なる種類が見られます。鳥類は標高や季節によって種類が大きく変わります。春から夏にかけては、オオルリやキビタキといった夏鳥が繁殖のために飛来し、美しいさえずりを響かせます。高山帯ではホシガラスやイワヒバリが見られます。特にホシガラスはハイマツの種子を散布する役割を持ち、植生と動物の関係を示す良い例です。

冬になると、アカゲラやヤマガラ、ゴジュウカラなどの留鳥が目立ちます。ゴジュウカラは木の幹を逆さに歩くことができ、木の割れ目に種子を蓄える習性を持つユニークな鳥です。かつて八ヶ岳にはライチョウ（図2）も生息していましたが、現在は南八ヶ岳では絶滅状態にあり、気候変動や人間活動の影響を考える上で重要な事例となっています。

昆虫類も豊富で、特に夏にはさまざまな蝶や甲虫が見られます。アサギマダラは代表的な蝶で、八ヶ岳南部の高原地帯でよく見られます。この蝶は長距離移動をすることで知られており、南から飛来し、秋にはまた南下します。花の蜜を求めて飛ぶ姿は、多くの登山者や自然観察者に親しまれています。また、八ヶ岳の森には、オオムラサキ（図3）という日本の国蝶も生息しています。幼虫はエノキの葉を食べて育ち、成虫になるとその美しい紫の羽を広げて飛び回ります。夜になると、ヒグラシやエゾゼミといったセミの鳴き声が森に響き、昆虫の活動がさらに活発になります。甲虫類では、ミヤマクワガタやノコギリクワガタなど見ることができます。これらは森の中の倒木や樹液の出る木に集まり、夜行性のため日中にはあまり姿を見せませんが、夜になると活発に行動します。

両生類や爬虫類も見逃せません。湿った環境では、ヤマアカガエルやモリアオガエルなどが生息しており、春から初夏にかけて産卵のために水辺に現れます。また、森の中ではニホントカゲなどの爬虫類も確認されており、日中は日向ぼっこをしている様子を見ることができます。

このように、八ヶ岳南部は気候帯や地形の変化が多様であるため、それぞれの生息環境に適応したさまざまな生き物が共存しています。季節ごとの変化も大きく、春夏秋冬で見られる動物や昆虫の種類が異なるため、訪れるたびに新しい発見があります。自然と生き物の豊かな関係が保たれているこの地域は、まさに生物多様性の宝庫といえるでしょう。今後もこの環境を守りつつ、自然との共生を図ることが求められています。

五味 直哉（山梨県立都留高等学校）

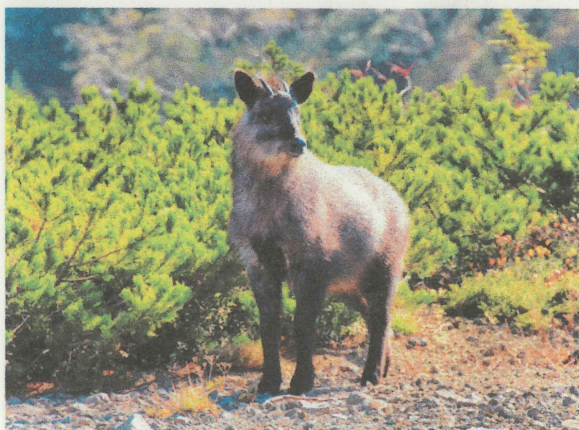


図1 山梨県の県獣・ニホンカモシカ



図2 かつては南八ヶ岳にもいたライチョウ

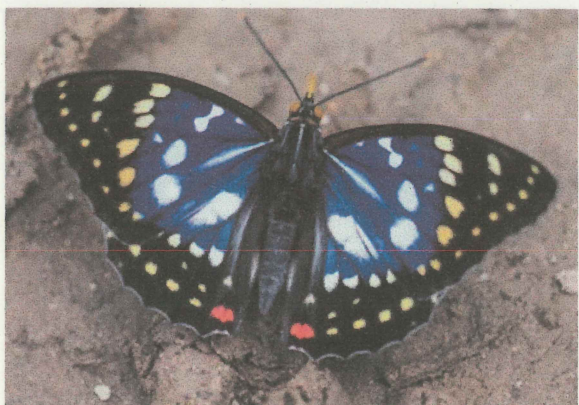


図3 日本の国蝶・オオムラサキ

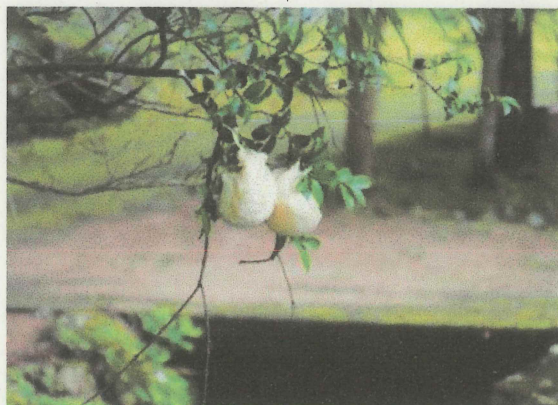


図4 モリアオガエルの卵

【八ヶ岳南部の地質的特徴】

南八ヶ岳は、新第三紀から第四紀にかけての火山活動によって形成された、南北約25 kmに連なる火山体です。現在は活動を停止していて、なだらかな山容の北部に対して、特に赤岳を主峰とする南部は、侵食が進み、古い地質が露出している点で北八ヶ岳とは対照的です。

1. 火山活動の時期と成因

八ヶ岳火山群はおよそ100万年前から火山活動を開始しましたが、南八ヶ岳における主要な火山活動は約70万年前から15万年前の間に集中しています。この時期には、安山岩やデイサイト質のマグマによる爆発的噴火や溶岩流が繰り返され、現在の山体を形成しました。南八ヶ岳の地質はこのような活動の痕跡を多く残しており、地層中には火砕流堆積物、溶岩、火山角礫岩などが確認されています。

2. 主な岩石と地質構造

南八ヶ岳では主に安山岩、デイサイト、およびそれらの変質岩が分布しています。特に赤岳周辺では、デイサイト質の溶岩円頂丘が形成されており、これは高粘性のマグマが火口から流れ出ずに盛り上がったことを示しています。また、横岳や硫黄岳では、火砕岩やスコリア層が見られ、爆発的な噴火を繰り返していたことが読み取れます。これらの岩石は、長年の風化・侵食によって削られ、険しい岩峰や断崖絶壁を形成しています。たとえば、赤岳の東壁は、溶岩や火山砕屑物が侵食を受けてできた火山性地形です。八ヶ岳の山体崩壊による堆積物は、甲府盆地を横切り、甲府盆地の南まで達したといわれています。その一部は、八ヶ岳から南に細長く分布する七里岩（しちりいわ）で見ることができます。円錐形の編笠山の斜面にはゴツゴツとした岩塊が分布していて、遠くから見た印象とは異なった特徴的な景観は青年小屋からも見られます。行動中には、名前のとおり赤い山肌の赤岳の荒々しい山容も遠く望むことができます。

3. 火山活動の痕跡と地形形成

南八ヶ岳には、火山活動の痕跡としてカルデラや火口跡はほとんど残っていません。これは侵食の影響が強く、元の火口構造が削り取られたためと考えられます。ただし、硫黄岳の山頂には浅い火口跡があり、比較的後期の噴火活動を示唆しています。また、南八ヶ岳の山腹には、火砕流堆積物や崩壊地形も多く見られ、過去の大

規模な変化を示しています。一方、阿弥陀岳や横岳では、厚い火砕流堆積物が浸食によって削られ、V字谷や鋭い尾根が形成されています。これらの地形は、活発な風化・浸食と地質の関係を如実に表しています。

4. 八ヶ岳断層と地殻変動

南八ヶ岳の地質を語る上で忘れてはならないのが、「八ヶ岳断層帯」の存在です。この断層帯は、南北方向に走る活断層群で、八ヶ岳火山活動と密接に関係しています。火山の形成と隆起にはこの断層の活動が関与しており、現在も地殻変動の要因となっています。断層の活動により地形が不安定になり、山腹崩壊や地滑りの可能性もあります。

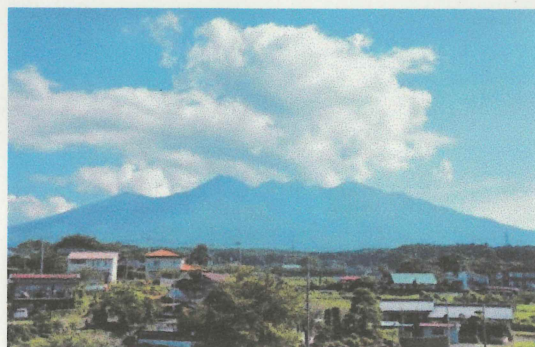
5. 地質学的意義と防災上の観点

南八ヶ岳の地質は、火山活動の歴史だけでなく、日本列島の造山活動やプレート運動の影響を知る上でも重要です。また、現在は休火山とされていますが、八ヶ岳火山群全体としては再び活動を再開する可能性もゼロではありません。また、南八ヶ岳一带は多くの登山者が訪れる人気の山域であるため、地質的な知見をもとにした防災対策も重要です。火山由来の脆い岩石や急峻な地形は落石や崩落の危険を孕んでおり、気象条件による地滑りなどの自然災害にも注意が必要です。登山行動の際には、足元に注意してください。

おわりに

南八ヶ岳の地質は、複雑でダイナミックな火山活動と、それに伴う侵食・風化作用によって形づくられてきました。安山岩・デイサイトを主体とした火山岩類、活発な地殻変動、そして現在に至るまでの地形変遷は、日本列島の成り立ちを理解する上でも極めて重要です。これらの地質的背景を知ることは、登山や自然観察だけでなく、防災や環境保全の観点からも有益といえるでしょう。登山コースによって異なる火山地形の変化を体感してください。

野呂忠敏（山梨県立日川高等学校）



諸 連 絡

1. 1日目の交通機関について

(1)鉄道利用の場合、JR中央線小淵沢駅からJR小海線に乗り換え清里駅で下車します。駅から山梨県立八ヶ岳少年自然の家まで徒歩で約10分です。

(2)車（バス・ワゴン車・自家用車）の場合、中央道長坂ICから清里方面に向かい約20分で北杜市営清里無料駐車場に到着します。駐車場から山梨県立八ヶ岳少年自然の家まで徒歩で約10分です。駐車台数には余裕があると思いますが、貴重品の管理等は各自で行ってください。



2. 開会式などについて

(1)1日目の昼食は開会式前に各校でお済ませください。コンビニ並びに食事処は清里駅周辺または長坂IC～清里間に複数あります。

(2)受付は山梨県立八ヶ岳少年自然の家本館正面玄関前付近で都県別に行いますので、各チームの代表が行ってください。総監督・役員は専用受付をお願いします。

(3)受付が終了したら案内に従ってメインザックを正面玄関脇の庇の下にある簀子の上に都県別チームごとに並べてください。

(4)各都県の総監督は受付時に高体連旗を預けてください。

(5)開会式・閉会式ともに山梨県立八ヶ岳少年自然の家体育館で行います。選手は登山の服装で参加してください。

(6)体育館は土足禁止ですので登山靴を脱いでお入りください。靴を入れるビニール袋などはあらかじめご持参ください。

(7)選手は体育館内では都県ごとに指定された場所に都県ごと整列、着座してください。監督並びに役員の方々は各都県の後方に着座してください。総監督は指定された場所にご着席願います。

3. 宿泊・食事などについて

- (1)調理に必要な装備、食器などは参加者が持参してください。
- (2)選手・監督とも本館南側の中庭（草地）での幕営になります。選手は指定された5m四方の区画内に、監督はその区画の北側のエリアに設営してください。
- (3)本来幕営地ではない場所なので、直火は厳禁をお願いします。火気使用の際には必ずコンロ台を利用し、火の取り扱いには十分注意して炊事を行ってください。
- (4)炊事の際に出た食器などは指定された炊事場で洗うことができますが、残飯などの固形物はできる限りふき取って、排水溝に流さないようにお願いします。
- (5)炊事で出たゴミは各チームに配布する専用のごみ袋に入れて指定された場所に出してください。
- (6)1日目に設営したテントは2日目も張ったままとします。設営隊役員は常駐していますが、貴重品は携行し、テントの入口は閉じてください。
- (7)中庭（草地）は子供たちが遊ぶ場所でもあるので、決してペグの抜き忘れなど怪我のもとになるようなものの残置がないよう各チーム責任をもって撤収してください。
- (8)幕営地の標高は約1,240mです。夜から明け方にかけてかなりの冷え込みが予想されますので、十分な防寒対策を行ってください。
- (9)2日目の登山行動後に汗を流す程度の入浴を予定していますので、入浴用のタオルとサンダルもしくはスニーカーなどをご用意ください。

4. 2日目の登山行動について

- (1)A・B・C隊ともに北杜市営清里無料駐車場～登山口間、下山口～北杜市営清里無料駐車場でバスによる計画輸送を行います（E隊はユースホテル発着）。
- (2)各コースともトイレはほとんどありません。簡易トイレは用意する予定ですが、携帯トイレなどは必ず各自で用意してください。
- (3)水場もほとんどありませんので、事前に10月の日帰り山行に十分な飲料水を用意してください。
- (4)登山行動はサブザックで行うので、サブザックの用意をしてきてください。

5. 3日目・閉会式などについて

- (1)起床、朝食後にテントを撤収し、パッキングの済んだメインザックを1日目と同じ場所に並べ、各チームのゴミ袋を指定された場所に出してから体育館に向かってください。
- (2)体育館入口付近でチームの代表者による受付を行い、閉会式と同じ場所に整列、着座してください。
- (3)閉会式終了後、現地解散となります。
- (4)迎いのバスなどは北杜市営清里無料駐車場での待機をお願いします。

6. ゼッケンについて

都県名、学校名を明記した半紙1/4（B6判）程度の白布を、メインザック、サブザックの両方につけてください。その際、以下の通り隊ごとに指定された色で周囲2cmを塗ってください。

A隊：赤 B隊：青 C隊：緑 E隊：黄

都県名
学校名

7. その他

教職員個人のデバイスによる生徒の写真、動画撮影は禁じられていますので、閉会式前の動画上映は行いませんが、ご了承ください。

8. 問い合わせ先

令和7年度第69回関東高等学校登山大会実行委員会事務局 萩原好一（総務委員長）

山梨県立甲府南高等学校（〒400-0854 山梨県甲府市中小河原町222）

Tel 055-241-3191 メールアドレス kickoff@kai.ed.jp